



農業技術センターニュース

目 次			
圃場作業によるチャノホコリダニの移動	・・・1	施設栽培における農薬のペーパードリフト	・・・3
水耕によるニラの生理障害の再現	・・・2	ハナニラの栽培技術の検討	・・・4

圃場作業によるチャノホコリダニの移動



作業衣1：綿製シャツ+素手

作業衣2：綿製腕カバー
＋ナイロン手袋作業衣3：ビニル製腕カバー
＋ビニル製手袋

図1 試験に用いた作業衣服

表1 チャノホコリダニの多発ほ場で整枝作業を行った場合における作業着へのチャノホコリダニの付着状況

測定部位		雌成虫	雄成虫	幼虫	卵
作業衣1	綿製シャツの袖口	0	0	0.3	0
	素手の甲	0.3	0	0.3	0
作業衣2	綿製腕カバーの袖口	0.5	0	0	0
	ナイロン製手袋の手の甲	0.5	0.3	0	0
	ナイロン製手袋の手の平	0.3	0	0	0
作業衣3	ビニル製腕カバーの袖口	0	0	0	0
	ビニル製手袋の手の甲	0	0	0	0

セロファンテープの粘着面468mm²当たり(スライドガラス1枚分)の付着虫数。数値は手または腕(袖口)を4回調査した平均値。

ナス科果菜類に発生するチャノホコリダニは多発すると茎頂部が枯死し生育が停止するため、被害は長期間に及び経済的な損失は甚大となります。

チャノホコリダニは、コナジラミ類の脚に付着して、ほ場内を移動することが認められています。しかし、その他の移動方法は明らかにされていません。そこで、作業者の衣服に付着し、移動するのではないかと考え調査を行いました。

調査は、チャノホコリダニが多発している施設栽培のシシトウほ場で行いました。作業員3名が、作業衣1(綿製長袖シャツ+素手)、作業衣2(綿製腕カバー+ナイロン手袋)、作業衣3(ビニル製腕カバー+ビニル製手袋)をそれぞれ着用しました(図1)。

5分間、整枝作業を行った後、衣服や身体にセロファンテープを押し付けて、チャノホコリダニの付着状況を調査しました。

その結果、綿製シャツの袖口、素手の甲、綿製腕カバーおよびナイロン製手袋の手の甲、手の平でチャノホコリダニの付着が認められました。一方、ビニル製手袋、ビニル製腕カバーには付着はみられませんでした(表1)。

このことより、チャノホコリダニは栽培管理作業中に作業員に付着してほ場内を移動することが明らかとなりました。また、作業衣をチャノホコリダニが付着しにくい素材にすることによって移動を抑制できると考えられました。

(昆虫担当 伊藤政雄 088-863-4615)